

さいたま市教組新聞

編集・発行/
さいたま市
教職員組合
〒330-0843
さいたま市大宮区
吉敷町4-93-5
大宮教育会館2F
TEL 641-6763
FAX 648-3567
2020.11.19(木)
No. 265

市教委交渉続報② 定数・代替問題など 現場の声を元に41項目要求

英語トライアル問題

市の学テは中止したのに何故？

ずさんな個人情報管理

指導1課との交渉の一つは、2学期が始まったばかりの8月末から9月にかけて6年生に対して実施された英語トライアルについてでした。市教組はこの英語トライアルの疑問点について公開質問状や情報開示請求を提出する等して市教委に対して問い質してきました。

現場の教職員に対してだけでなく、保護者に対しても詳しい説明がななく実施されたこのテストは、該当学年担任や担当者に大きな混乱と負担をかけた。さらに、問題内容が現行のGSの学習内容に一致していないことも混乱の一つになり、一部の学校では模擬試験のようにリスニングについて何度も練習をしているようだと報告もありました。この状況で、なぜ

実際の解答用紙には、



職場の声

児童がそれぞれ自分の生年月日と名前を漢字と特別なローマ字で記入するようにになっており、この

情報は個人が特定され、何年にもわたって情報管理されることにつながります。業者がこの情報を様々な場面で利用することが懸念されます。実際に、高校生や大学生の名前・生年月日付きのテスト成績は、主催業者が高額な金額で受験者から

買い取るようなシステムがあるくらいですので、これから先、何年もの間、さいたま市の子どもたちが情報を追跡され、利用されることになり得ます。市教委は、この情報管理をどのように考えていたのでしょうか。

「解答用紙に生年月日等を書かせることを承知していた」と回答しました。個人情報の保護の点で許されることなのかを追求しましたが、明確な回答はなく、再交渉事項となりました。

そんなにも急いでどこへ行く？

何よりも優先されるのかICT教育

2学期開始直後の8月26日、長会における指導2課の報告教育研究所において校長研究協議会（いわゆる校長会）がリモートではなく全員集合の形式で行われました。

市教組は各職場の校長からの報告を総合し、その協議内容についておおむね把握しましたが、それはこのコロナ禍で、感染拡大の阻止、子どもたちの精神的な不安の解消についてどのような指針が示されるのかを求めていた教職員にとっては肩透かしを受けたような報告でした。

「この構想を、「1人1台端末は令和の学びの『スタンダード』」とまで言って、最先端の教育として普及を図ろうとしています。それをさいたま市は「GIGAスクール」として、いち早く導入するようです。教育長は1人1台端末と、すべての子どもたちにICT環境を実現することにより、「学びのパラダイムシフトが起ころ」とまで言い切っています。しかし、これまでに積み上げてきた教育の成果を評価せず、劇的な変化を期待しているかのような考えのようですが、先のアンケートではインターネット環境の整備が十分でないところに、家庭の負担増も懸念されるような性急な施策に対して、思わず

この時期は毎年、不登校や自殺が増える傾向にあるが、今年は感染者に対する「コロナいじめ」や変化を余儀なくされた家庭生活のストレスといった新たな要因から、例年以上に子どもたちの心身の不安、精神疾患のリスクの高まりが危惧されます。現に、校

「今、何を大切にしなければならぬのか」「リーダーから、まずは感染拡大の阻止、子どもと教職員の命と健康を守る言葉が欲しかった」と疑問の声が広がっています。文科省は国民に示したGIGAスクールのリーフレット

「そんなにも急いでどこに行く」といった標語を思い浮かべてしまいます。

